

金属部会CPD技術セミナー13

歴史に学ぶ金属学

技術セミナー開催のご案内

歴史金属学2 2024年11月24日(日)

座長：田中和明

金属の歴史は、技術の歴史です。今回は金属の歴史に造詣の

セミナー会費：500円

深い演者による自由な発想で金属を語り尽くす上質の金属エンターテインメントです。

第1講13:00-前義治氏（「銅とアルミニウムのおはなし」の著者）「金属学と考古学の常識を越えて～周期表を補完する元素図の導入と青銅鏡の同環鏡の発見～」

演者は周期表を補完する元素の特性の表示法として元素図を考案し、それを利用して、元素の特性を種々解明した。ここでは、結晶構造と宇宙存在度について述べる。さらに演者は、古代青銅鏡について、いままで見過ごされてきた鋸歯文を解析して、任意の青銅鏡の出自を明らかにする方法を開発した。それらの結果を報告する。

第2講14:00-倉島一氏（新潟の刀研ぎ師、日軽金出身）

「溶融銑鉄に砂鉄を食わせる／日本刀と懸垂曲線」

鉄に様々な元素を添加し出現した鉄鋼材料は多様な組織を有し、強度、靱性、弾性、加工性、麗性等を特性として、産業社会の基盤を支えている。その特性は19世紀後半に出現し発展した鉄鋼組織学によって制御されている。本講では1850～1925年頃の西欧における鉄鋼組織学の変遷をトレースし、科学や技術の発展に必要な条件を考察する。それを基に重要課題SDGsが鉄鋼材料に求めている現況と今後を考察する。

第3講15:00-桐野文良氏（東京藝術大学名誉教授）

「江戸小判の制作技法—金属着色技法を中心に」

第4講16:00-田中和明（金属部会長）

「思いがけない金属と日本史：セレンディピティ金属学」

技術セミナー次回以降開催のご案内

14 KIPチャレンジ予選：12月8日

15技術者倫理2：2月8日

主催 日本技術士会金属部会